

建設環境委員会活動報告

市民が安心して暮らせる狭山市のために



智光山公園キャンプ場の視察



市職員による説明の様子

閉会中特定事件

建設環境委員会では、令和4年2月10日に「公園整備について」に関し、「智光山公園キャンプ場拡張整備事業及び子ども動物園鳥飼育舎整備事業の進捗状況などについて」の調査を行いました。

智光山公園キャンプ場拡張整備事業

智光山公園キャンプ場ワーケーション環境整備の工事は、WiFi、電気、ガス、上下水道をはじめ、ソロキャンプサイト、シャワールーム、炊事場など、全ての工事が完了していることを確認しました。

子ども動物園鳥飼育舎整備事業

狭山市立智光山公園子ども動物園鳥飼育舎新築工事は完了しており、ヨウム(オウム目インコ科の鳥類)の一般公開に向け、準備中であることを確認しました。



水道事業の危機管理体制

大規模な災害による職員、庁舎、設備などへの相当の被害を想定し、ライフライン確保のため優先実施業務を中断せず、優先度に沿って復旧作業や通常業務を行うために水道BCPが策定されていました。

入曽駅周辺整備事業における入曽駅橋上駅舎及び東西自由通路の進捗状況

事業の基本設計の進捗状況は、「基本設計その2」の実施による「橋上駅舎及び東西自由通路」の概算工事費の算出により、事業費が当初の想定を超過していることを確認し、現状と今後の予定を調査しました。

不老川雨水管整備事業の進捗状況

埼玉県では平成29年度から令和4年度まで「不老川床上浸水対策特別緊急事業」を実施しており、市では入曽駅周辺の浸水被害軽減

令和3年度の所管事務調査を振り返る(6月〜3月)

減を目的に実施している「不老川雨水管整備事業」を調査しました。

第3次環境基本計画の進捗状況

第2次狭山市環境基本計画が令和3年度に満了となることから、市の環境を取り巻く社会情勢の変化を踏まえて、第3次狭山市環境基本計画の策定内容とその進捗を調査しました。

入曽駅周辺整備事業の進捗状況

駅前広場道路整備、複合商業施設の誘致について調査し、橋上駅舎及び東西自由通路整備などについて、は、再度、進捗状況を調査しました。

狭山市笹井地区における地下水の環境基準超過

地下水調査の経緯、継続監視調査、汚染井戸周辺地区調査など、これまでの対応や経緯、今後の対応について調査しました。

文教厚生委員会活動報告

狭山市における学校教育の明るい未来のために



向野前教育長(左)に提言書を渡す三浦委員長(中)、綿貫副委員長(右)

議案審査

文教厚生委員会では、令和4年度一般会計予算、国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療の各特別会計予算など、委員会に付託された11件の議案について審査を行いました。

小・中学校の規模と配置の適正化等への提言を提出

令和3年7月より「狭山市立小・中学校の規模と配置の適正化」を基軸に閉会中の特定事件調査や委員間討議を行ってまいりましたが、令和4年1月14日に閉会中の特定事件調査として、3月3日に所管事務調査として委員会を開催し、小・中学校の規模と配置の適正化に関する提言内容を決定し、同月4日に教育委員会に次のような提言書を提出いたしました。

狭山市の学校教育の未来に向けた提言(小・中学校の規模と配置の適正化等への提言)の概要

考え方1 未来から逆算する思考法も持つ

児童・生徒数の推計や学校施設の現状から目標を積み上げていく従来の考え方をもちながらも、未来に目標を設定して、そこから振り返って現在すべきことを

考える、未来から逆算する思考法「バックキャストイング」の思考も持ち、児童・生徒が理想的な教育環境で学ぶことができるように、中長期的かつ複合的、全体的な視点で施策を進められたい。

考え方2 規模と配置の適正化イコール統廃合ではない

学校の規模と配置の適正化の目的は、児童・生徒が健全に育つ教育環境を確保するために取り組まれるものであり、学校の統廃合や廃校を前提として進めるものではないことを常に意識されたい。

個別の施策目標

『未来に向けた狭山市の学校環境』

①市全体を捉えた学区の見直しを

●少子化や人口の社会増減の状況、市の人口ビジョンや総合戦略、まちづくり施

策の展開など、児童・生徒を取り巻く人口の動きや変化について注視されたい。

●小・中学校それぞれの適正規模と配置について改めて精査を行い、全市的な学区の再編に取り組まれたい。

●中学校については、どの学校も一定規模の生徒数となるような学区となるように配慮されたい。

●学区の変更及び学校統廃合等を進めるときには、保護者をはじめ地域住民からの理解を得られるように、十分な周知期間を設けて丁寧な対応を心がけられたい。

②時代の変化への対応を

●デジタル化や感染症対策に対応し、児童・生徒の学習空間を十分に確保されたい。(机を大きくする、教室を広くする、など)

●昭和に建てられた学校を令和以降にも使用するためには大規模な修繕が必要である。施設の長寿命化が基本であっても、状況に応じて新しい学校への建て替えについても検討されたい。